

平成17年（2005年）3月

シンゴナンサス クリサンサス種

(*Syngonanthus chrysanthus* (Bong.) Ruhland)

対象植物の範囲

植物分類学上の「シンゴナンツス」はホシクサ科 (Eriocaulaceae) のシンゴナンツス属 (*Syngonanthus* Ruhland) を示し、本基準案はシンゴナンツス属を対象とする。

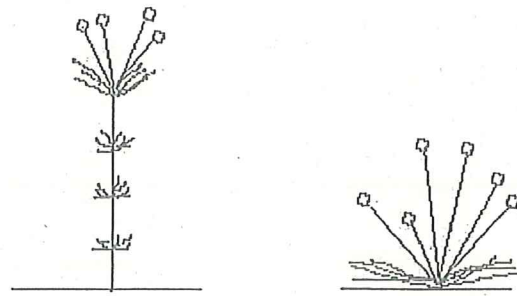
本属は約250種有り、湿潤を好み、その大部分が南米に、一部がアフリカに自生する。本基準案作成に当たっては、日本で一般に流通している種 (*S. chrysanthus* Ruhl.) を中心に検討した。したがって、これら以外の種の出願があった場合は、本基準案適用の可否について前もって検討する必要がある。

特性審査基準
(1) 特性審査基準

重要な形質	番号	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
草姿	1	生育型	節間伸長の有無によるタイプ区分	観察 図1	節間伸長型 ロゼット状型	1 2		
	2	束生の有無 (節間伸長型品種のみ)	束生の有無	観察 図2	無 有	1 9		
	3	株幅	葉群の最大径(花茎は含めない)	測定 (cm) 図3	狭 中 広	3 5 7		15cm
草丈	4	草丈	地際から最頂部までの高さ(自然高)	測定 (cm)	低 中 高	3 5 7		30cm
茎の形状	5	茎の長さ (節間伸長型品種のみ)	地際から最終の束生した部位までの長さ	測定 (cm) 図4	短 中 長	3 5 7		
	6	茎の太さ (節間伸長型品種のみ)	茎の中間部の太さ	測定 (mm)	細 中 太	3 5 7		
	7	茎の毛の有無 (節間伸長型品種のみ)	茎の毛の有無	観察	無 有	1 9		
	8	節数 (節間伸長型品種のみ)	節数(輪生状部は1節とする)=段数	測定 (節/段)	少 中 多	3 5 7		3節 7節 11節
葉の形状	9	束生している部位と茎の葉形の相違	束生している葉と茎生葉の形の相違	観察	無 有	1 9		
	10	茎生葉の形 (束生している部位と茎の葉形の相違が有の品種のみ)	茎生葉の形	観察 図5	針形 線形 披針形 狭楕円形 倒披針形	1 2 3 4 5		
	11	茎生葉の長さ (束生している部位と茎の葉形の相違が有の品種のみ)	茎生葉の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		
	12	茎生葉の幅 (束生している部位と茎の葉形の相違が有の品種のみ)	茎生葉の幅	測定 (mm)	狭 中 広	3 5 7		
	13	束生している葉の形	束生している葉の形	観察 図5	針形 線形 披針形 狭楕円形 倒披針形	1 2 3 4 5		
	14	束生している葉の長さ	束生している葉の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		7cm
	15	束生している葉の幅	束生している葉の幅	測定 (mm)	狭 中 広	3 5 7		2mm
	16	束生している葉の色	束生している葉の色	観察	淡黄緑 淡緑 緑 濃緑 灰緑 緑褐	1 2 3 4 5 6		
	17	束生している葉の毛の有無	束生している葉の毛の有無	観察	無 有	1 9		

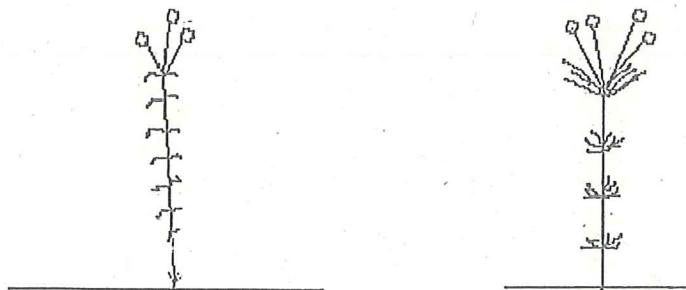
重要な形質	番号	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
葉の形状	18	束生している葉の数	束生している葉の数 (最長葉の1/2長以上の成葉が対象)	測定 (枚)	少 中 多	3 5 7		100枚
	19	花茎長	最長花茎の基部から 総苞下までの長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		30cm
花の形状	20	花茎数	頭花(蕾を含む)を持つ花茎数	測定 (本)	少 中 多	3 5 7		20本
	21	頭花群の径	頭花群の最大径	測定 (cm) 図3	狭 中 広	3 5 7		15cm
	22	花茎の毛の有無	花茎の毛の有無	観察	無 有	1 9		
	23	花茎の色	花茎の色	観察	淡黄緑 淡緑 緑 濃緑 灰緑 緑褐	1 2 3 4 5 6		
	24	花の形	開花終期の頭花の側面の形	観察 図6	四角 球形 半球形 倒半球形 倒円錐形 横楕円形	1 2 3 4 5 6		
	25	花の高さ	開花終期の頭花の高さ	測定 (mm) 図7	低 中 高	3 5 7		4mm
	26	花の幅	開花終期の頭花の最大幅	測定 (mm) 図7	狭 中 広	3 5 7		10mm
	27	花色	開花盛期の花色(複数の場合は併記する)	JHSカラーチャートの色 票番号による				
	28	総苞片の長さ	頭花と比較した総苞片の長さ	観察 図8	頭花より短い 頭花と同程度 頭花より長い	1 2 3		
	29	総苞片の形	総苞片の形	観察 図9	披針形 卵形 楕円形 倒卵形 倒披針形	1 2 3 4 5		
	30	総苞片の色	総苞片の色	観察	淡緑 緑 濃緑 灰緑 緑褐 淡褐	1 2 3 4 5 6 7		
早晩性	31	開花期	50%の株が開花した日	測定 (月日)	早 中 晩	3 5 7		

(2) 参考図



1 節間伸長型 2 ロゼット状型

図1 生育型 (形質1)



1 無 9 有

図2 束生の有無 (形質2)

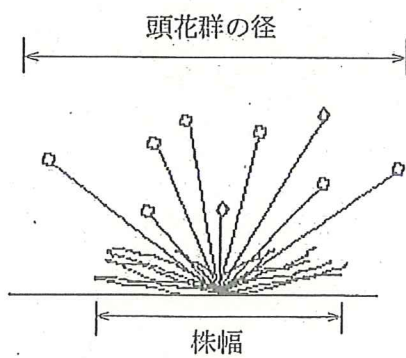


図3 株幅 (形質3)、頭花群の径 (形質2 1)

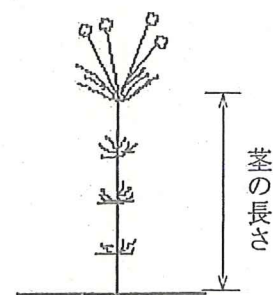


図4 茎の長さ (形質5)

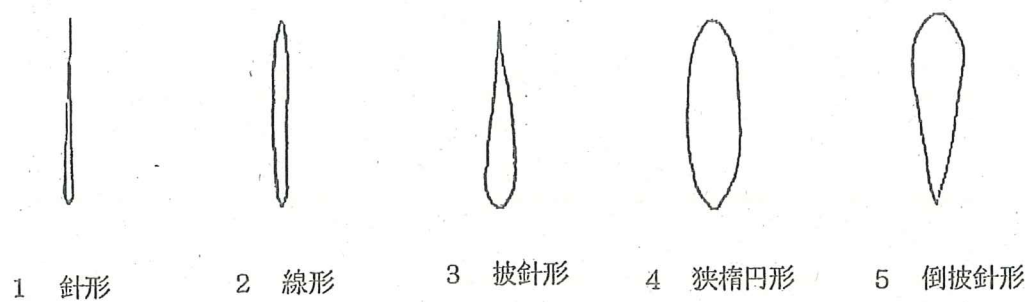


図5 葉の形 (形質10、13)

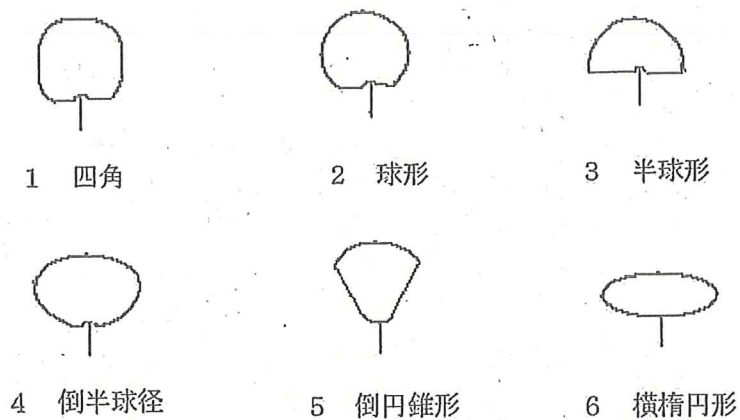


図6 花の形 (形質24)

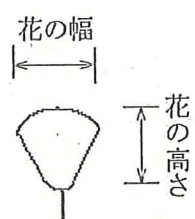
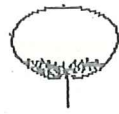
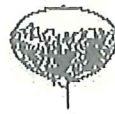


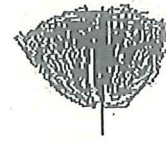
図7 花の高さ (形質25)、花の幅 (形質26)



1 頭花より短い



2 頭花と同程度



3 頭花より長い

図8 総苞片の長さ（形質28）



1 披針形



2 卵形



3 楕円形



4 倒卵形



5 倒披針形

図9 総苞片の形（形質9）

特性検定のための栽培試験方法

(1) 耕種概要

- 作型 施設加温鉢栽培
- は種 秋まき（種子繁殖性品種）
無菌は種
- 株分け 秋（栄養繁殖性品種）
- 摘心等 放任
- 鉢の大きさ 3～4号
- 用土 ピート（pH調整済み）：鹿沼土（小粒）＝2：1
- 環境条件 温度20℃前後、湿度70%前後で管理
光は2万～3万ルクス（曇天時程度）となるよう必要に応じ遮光

(2) 供試個体数

- 種子繁殖性品種 30個体
- 栄養繁殖性品種 15個体

(3) 調査時期 調査時期の指定のない形質は、開花終期の花（花序）を持つ花茎を数本含んだ頃

(4) 栽培上の留意事項

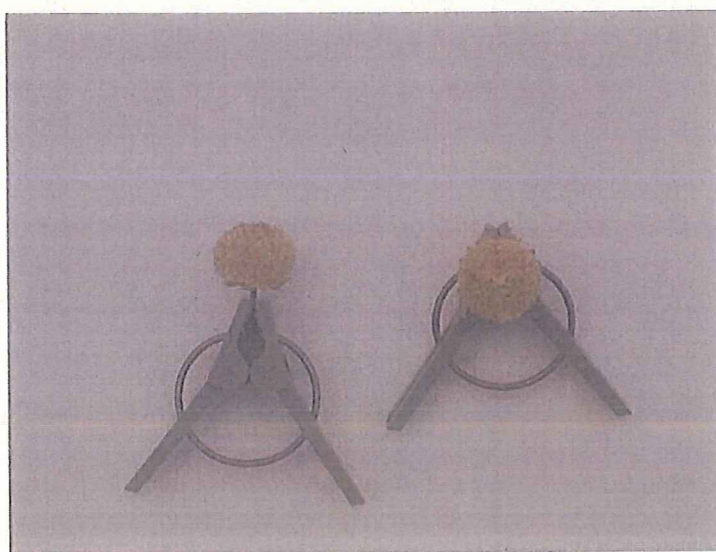
- 温度は14℃以下及び30℃以上にならないように管理する。
- 肥料は原則として施用しないが、生育の状況によっては、1,000倍程度の液肥（3要素含有率が等量のもの）を適宜与える。
- 乾燥させてはいけませんが、植物が濡れすぎてもいけない。水やりは下から（腰水）が望ましい。

参考写真



「Sycst-1」

草姿



頭花